

通年・滞在型の **夏油高原リゾート** を目指して

夏油高原スキー場の将来構想

世界に誇る良質なパウダースノーと国内屈指の豊富な積雪量が魅力の夏油高原スキー場。平成5年12月のオープン以来、夏油高原エリアの通年観光の拠点として役割を果たしています。このたび、市の重要な観光資源を将来どのように継続させていくか検討・整理し、将来構想としてまとめました。

■問い合わせ 商業観光課 ☎72-8241



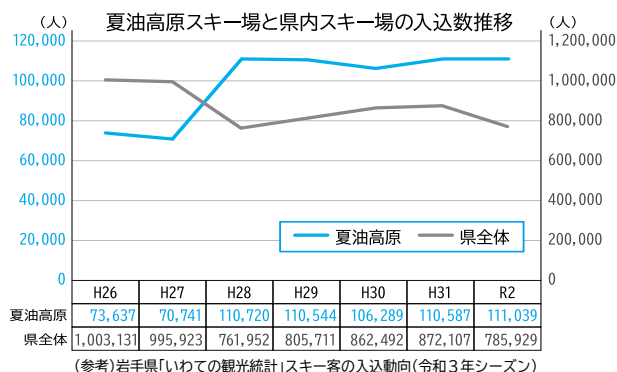
地域経済に影響大 雇用・スポーツ振興の役割も

夏油高原スキー場（以下、スキー場）には、ウインタースーズンに約10万人のスキー客やスノーシューハイキングを楽しむ人々が訪れています。また、グリーンシーズンは夏油高原まつりやキャンプ場、各種イベント会場として利用されており、スポーツの振興や子どもの野外教育活動の場、冬季の雇用創出の役割を担っています。

平成31年に岩手県立大学と共同で行った研究「夏油高原スキー場による北上市への経済波及効果」（調査対象期間：平成26年～30年）では、5年間の平均で年間約10億円の経済波及効果が見込まれるという結果が出されました。これは、市が年間に負担している施設の維持管理費や除雪の費用7千万円を大きく上回ります。このことから、スキー場は地域経済に大きな効果をもたらしており、市にとって欠かすことのできない観光資源と言えます。

魅力を生かした事業を展開 スキー客の入込数も増加

平成25年7月からは、市が所



有するスキー場施設を(株)北日本リゾートが借用する「公設民営方式」で運営。夏油の魅力を最大限に生かした事業展開と国内外への発信を強化し、県内で唯一、スキー客の入り込みを伸ばしたスキー場となりました(右表)。民間のノウハウと取り組みの積み重ねが成果として表れています。

スキー場の価値を再認識 目指す将来像を描く

同社との貸借契約期限が来年度に迫る中、市は、これまでの経済波及効果と今後見込まれる費用対効果を分析。施設の老朽

近年のスキー場の取り組み

公設民営での運営以降、良好な雪質と地形を生かしたツリーランコースを開設したほか、海外へのPR活動も積極的に展開。ゆったり滞在できる宿泊施設も整備しました。またグリーンシーズンには大自然を満喫できるアクティビティ(体験型サービスなど)を打ち出し、通年で楽しめるリゾートを目指してきました。



(左上)周辺の山々を見下ろせる熱気球体験(中上)夏の広大な敷地を生かしたキャンプフィールド(中下)グレンデを一望できるプレミアムステイ「豪」(右下)林の木々をすり抜けながら圧雪しないコースを楽しむツリーラン





化により投入経費が増えるものの、地域経済にもたらす効果は大きいと見込まれることから、スキー場を継続すべきと整理しました。その上でスキー場の将来の方向性を検討するため、市民や関係団体から意見を、市議会や夏油高原スキー場運営評価委員会から提言をいただきながら、このたび「夏油高原スキー場の将来構想」を策定し、課題や方向性、10年後の将来像とともにその先の将来のあり方をまとめました。

さまざまな課題に取り組みながら、運営事業者や地域団体と共に通年・滞在型の夏油高原リゾートの実現を目指します。

夏油高原スキー場の将来構想の概要

<10年後の将来像>

「通年・滞在型の夏油高原リゾートへ」

今後取り組んでいくべき課題

- ・施設の老朽化への対応
- ・宿泊機能の充実
- ・グリーンシーズンコンテンツの拡充
- ・地域団体などとの連携強化



10年後に向けた主な方向性

- ・地域との連携を強化しながら公設民営方式による運営を継続し、地域経済への効果を維持します。
- ・施設の維持管理計画を策定し、運営事業者と連携して現状の施設を適切に維持します。
- ・グリーンシーズンのコンテンツを拡充し、通年型の観光施設として充実を図ります。
- ・地域団体などとの連携を深め、夏油高原エリア全体の活性化を促進し、スノーリゾートの基盤を形成します。
- ・リゾート化に向けた運営事業者の取り組みを支援し、滞在型の観光施設としての充実を図ります。
- ・地元住民の利便性向上を図ります。

安全で快適な施設【施設の適切な維持管理】

1

○オープンから約30年経過し老朽化が進む施設を適切に維持管理するため、令和15年を目途に計画的な長寿命化工事を実施します。それまでは、運営事業者と連携し部分的な更新と修繕を行います。
○ゴンドラなどもリノベーションを行いながら長寿命化を図り、運営事業者による施設点検とメンテナンスの体制を構築します。

2

通年で楽しめる観光施設【グリーンシーズンの拡充】

○キャンプ場をはじめとするグリーンシーズンのコンテンツを継続し、通年型の観光施設を目指します。また、運営事業者と連携し、キャンプやトレッキングなどのアクティビティ、合宿の誘致、スキー場を会場としたイベントの充実を図ります。

3

夏油高原エリアを巻き込むスノーリゾート形成の拠点【スノーリゾートの基盤形成】

○運営事業者が中心となり、地域の関係者と一体となってウィンターシーズンにスキー以外にも自然の豊かさなどを味わうことのできる滞在型リゾート形成を目指します。
○大人数の宿泊を伴う大会や合宿の誘致、ファミリー層の滞在などに対応する宿泊機能の拡充を図ります。併せて、国有林野でのスノーリゾート形成のあり方を研究します。

4

地元住民が気軽に立ち寄れる遊びの場【地元住民の利便性向上】

○運営事業者と連携し、地元に向けた情報の周知と気軽に立ち寄れる要素、地元住民がリピーターとなる工夫などを取り入れた事業展開を実現します。

その先の将来に向けて

1 スノーリゾートの形成に向けた環境づくり

夏油高原エリアのブランディング強化やDMO設立、周辺地域と連携してのコンテンツ充実により、夏油高原の魅力を世界に発信します。

2 環境と開発の両立

持続可能な観光を目指し、自然環境と地域資源を保護しつつ、民間活力による施設環境整備の仕組みづくりを検討します。